

冊子「土木遺産な旅のススメ」を 実践するインフラツアー



#土木遺産

#ガイドツアー

#旅ノート

熊本県内の土木遺産など(上益城郡・阿蘇郡)



INFORMATION

- 主催者：主催：(一社)建設コンサルタンツ協会
後援：(一社)九州地域づくり協会
- 名称：①通潤橋 ②阿蘇大橋(新・旧) ③阿蘇立野ダム
- 所在地：①熊本県上益城郡 ②、③熊本県阿蘇郡
- 開催日：2024年5月11日
- 対象者：大学生(九州大学3年生)など
- 参加人数：21名
- 内容：・先人の知恵が集結した国宝・通潤橋
・熊本地震で崩落し復旧した阿蘇大橋
・令和6年に竣工した阿蘇立野ダム

👍 ここがポイント！

▶ 著者による事前講義で伝えた土木史の魅力

昨年、(一社)九州地域づくり協会では九州に遺る250余の代表的な土木遺産にフォーカスした冊子「土木遺産な旅のススメ」を発行しました。冊子では土木遺産を巡り歴史をたどることで地域の価値を知り、未来へ継承する学びを紡いでいこうと推奨しており、本イベントはこれを基に開催したものです。開催に先立ち今回は九州大学3年生を対象に、本年4月の1講義枠で土木遺産の魅力などについて説明する機会を得ました。多くの学生が受講し、講師(冊子執筆者、国交省OB)によるプレゼンと質疑応答は熱気に溢れました。参加学生全員に冊子を配布しました。

▶ 自治体学芸員や設計者、管理者がガイドとなり 深掘りの説明

本年5月11日(土)、冊子でとり上げた土木遺産の中から橋として全国初の国宝に指定された通潤橋と上流の円形分水路、平成28年の熊本地震で落橋した旧阿蘇大橋と5年後に復旧した新阿蘇大橋、今春完成した阿蘇立野ダムの3地点を巡る旅を開催しました。各地点では、ただ見学するだけではなく歴史、技術、管理など多様な側面から学ぶという観点で、深い話ができる専門ガイドを選考しました。

通潤橋では地元山都町の学芸員から170年前の建設の時代背景、阿蘇外輪山地域特有の地形・地質、用水技術、建設を推進した地元の惣庄屋布田保之助や種山石工らが練った先人の知恵を聞くことができました。

阿蘇大橋では、熊本地震による崩落当時のまま震災遺構となった旧橋を見学したのち、その原因の活断層を跨ぎ落橋防止構造で架け直された新橋を見学しました。ここでは新橋の計画・設計に携わった主催者側技術者から、技術の深い説明を聞くことができました。

さらに今年4月に運用開始した阿蘇立野ダムでは、管理者である国土交通省九州地方整備局のOB(元工事事務所長)や専属ガイドから、熊本地震、活断層、湛水域内の阿蘇北向谷原始林への影響軽減策、景観への配慮策などの説明を受けるとともに、堤体監査廊を歩行し、大学生に対して貴重な体験を提供することができました。

▶ 学びを振り返る“旅ノート”の作成とコンテストの開催

参加学生には記憶を書き留め共有する目的で、イベント後に①先人の知恵に学べたこと、②被災復興から学べたことを選択テーマにした「土木遺産な旅ノート」を作成していただき、発表コンテストを開催しました。本イベントは地元TV、新聞などのメディアに取り上げられました。

